

重層する環境ガバナンス(統治)から見た「賢明な利用」と「非賢明な利用」

湯本プロジェクト 奄美・沖縄班

安溪遊地(山口県立大)

2009年5月10日・駒場にて

1. 環境ガバナンスを考えるよう になったわけ

ある選択が「賢い」か「賢くない」かは、議論百出、同時代人にはなかなか判断できないことが多い。

結果の出ている「昔」はわかっても、「今」はなかなかわからない。まして「未来」は……

あの時はいいとおもったのに.....

- 事例1 便利だと信じて大々的に使ったフロンガスが、これからオゾン層を破壊するとわかった。
- 事例2 地震列島の原発とその関連施設（本日、柏崎7号機再起動。

六ヶ所村のガラス固化施設で3月に134リットルもの高レベル廃棄物が漏れて行方不明中)

遅延型時限爆弾

デクノバウとその家族の**非常識**な選択

岩盤の地にスギを植え、強い枝打ちをして、その下で子ども達が遊ぶまま放置

- 「その虔十といふ人は少し足りないと思つてゐたのです。いつでもはあはあ笑つてゐる人でした。毎日丁度この辺に立って私らの遊ぶのを見てゐたのです。この杉もみんなその人が植ゑたのださうです。あゝ全くたれがかしこくたれが賢くないかはわかりません。たゞどこまでも十力《じふりき》の作用は不思議です。こゝはもういつまでも子供たちの美しい公園地です。どうでせう。こゝに虔十公園林と名をつけていつまでもこの通り保存するやうにしては。」
（宮沢賢治・「虔十《けんじふ》公園林」）

なぜ環境ガバナンスを提案するか

- 多様で重層的な環境ガバナンスを論ずる方が、価値判断を伴う、賢明・非賢明を扱うよりも困難が少ない。
- 「なぜそうしたのか」を問う、動機主義でも、「結果が大事」の帰結主義でもなく、人間の働きかけと自然の応答のプロセスそのものをエビデンス・ベースで扱うことができる可能性がより高い。

家族(と家族群)を単位とする 環境ガバナンスの重要性

重層する環境ガバナンスの中で、
もっとも古く、もっとも重要なもの。→

「レベル」という言葉は、上下
すなわち優劣を思わせるので
使わないことにしたい。「層」
そのガバナンスが覆う地理的な
ひろがりの広い狭いを指標に

「今ここ」がわかれば、昔も遠くもわかるかも。
うちの山の木の伐採と周辺の松枯れ防除に
見る **環境ガバナンス** (統治) の5レベル



一冬分約二十トンの薪。
(福島の椎茸農家の秋山豊寛
さんを迎えて)

重層する環境ガバナンス(統治)の例示

- 0. 家の山の木を伐って暖房・風呂につかっている。
- 1. 家の敷地内の枯れた松は伐採班が来て倒す。
- 1~2. 切り倒したあとに殺虫剤をかけないで！
- 2. 私の家のまわりの山に空中散布はやめて！
- 1~3. 45年君臨している自治会長から村八分に。
- 3. 山口市林政課は「地元からの要望があるから」。
- 4. 市町村からの要請や、松林の残存状況を踏まえ空散地域を決める山口県の委員会で意見陳述。

2007年度、山口県で50%減、山口市で60%減
わが仁保地区で100%減の決定！（5に進まず済んだ

われらいま何を探ねるべきか

- ・時代や地域ごとのさまざまな「かしこい」「賢くない」
- ・政府には政府の「賢明さ」、島びとには島びとの「かしこさ」、学者には学者の「賢さ」があるはず。
- ・それぞれの歴史を背負った、たくさんの「賢さ」がぶつかり合い、重なりあうところに悩みや衝突が。
- ・「たゞどこまでも十力《じふりき》の作用は不思議」と認めるのが宮沢賢治のいう本当の「かしこさ」。

→ 重層する環境ガバナンス(統治)の
歴史的・生態的検証を

2. 過去の自然資源利用の事例に学ぶ

- × 大失敗（崩壊）
- △ 中くらいの失敗（利用中止）
- ○ なんとか利用が存続

環境ガバナンスの危機

(=賢明でない利用?)の3類型

- 1. 同じか近いレベルの環境ガバナンス同士が衝突する(わが家の空散)。
- 2. 環境の変化のスピードに前例にこだわる環境ガバナンスが追いつけない(不都合な真実)。
- 3. 重層し連関していた環境ガバナンスが消滅した時、それを補うべき環境ガバナンスが機能しない。(八重山のジュゴン、ルワンダ内戦時のコンゴ民主の世界遺産カフジ・ビエガ国立公園のゴリラとゾウ)

環境ガバナンスの危機回避 (=賢明な利用?)への道

- 1. 同じか近いレベルの環境ガバナンスの衝突を上位の環境ガバナンスが調整する。
- 2. 環境の変化のスピードにあわせて柔軟に対応できる環境ガバナンスを構築。
- 3. 重層し連関する環境ガバナンスのいくつかが消滅しても、その機能を補完できるよう、ひとつひとつの環境ガバナンスを自律的なものとし、ガバナンス間の相互理解と連帯を推進。

ガバナンスの層の間の関係

A, 重層し、補完しあっていた環境
ガバナンスの層のひとつが消滅する
などして、ガバナンスの層の間の連携
が破綻。修復できれば○。

× 八重山のジュゴンの絶滅

× 八重山のジュゴンの絶滅過程

- 首里王府による環境ガバナンス
 - 首里王府によるジュゴン捕獲の制限があった
(新城島だけに捕獲を限定し、他の八重山諸島の住民は捕獲が許されなかった)
 - →租税の対象となり、管理されていた。
 - →結果として二百数十頭もしくはそれ以上のジュゴンが生息していた。
- 沖縄県に以降したけれどジュゴンの環境ガバナンスは捕獲統計のみ
 - 首里王府の崩壊ののち無制限な捕獲が行なわれた。
 - →商品として出荷（県統計書に価格などが掲載）
 - →結果として八重山の個体群が絶滅

ガバナンスの層の間関係←WTO型

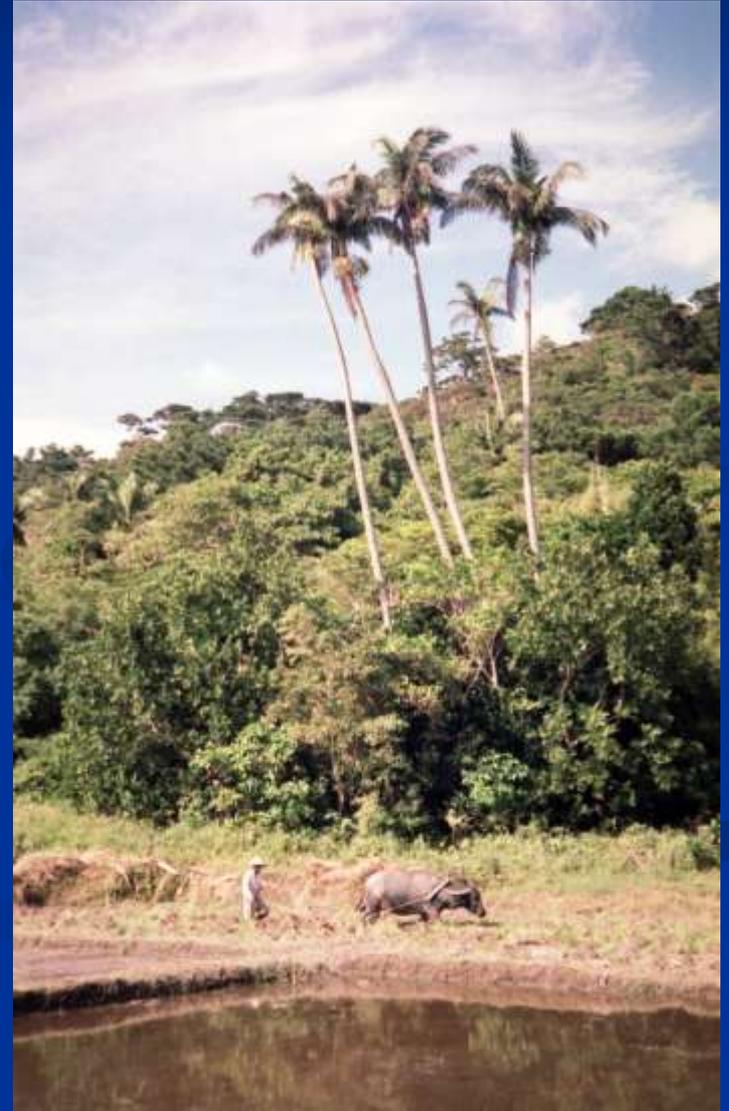
より広い範囲を覆うガバナンスが適用される。

△→○ 山口県の八代のナベヅル。
猟銃で傷ついた鶴を守る住民→
生息地の天然記念物化

ヤマネコ印西表安心米の挑戦

・イリオモテヤマネコと共存できる環境ガバナンスを

- 1477年 稲作の初記録
- 1986年 農薬散布強制
- 1989年 安心米スタート
- 1991年 合鴨稲作開始
- 1998年 借金返済終了
- 2006年 後継者の帰島



(C) 安溪遊地



西表安心米生産組合

0980856302

地域を越えたガバナンスどうしの関係

環境ガバナンスの差を利用して
ひと儲けを狙う

×マレーシア・ブキメラ村でトリウム汚染
を引き起こした三菱化成(現、三菱化学)
→誤算は、日本人の科学者・弁護士たち
従業員が現地住民に協力したこと

戦争はガバナンスの層ごと破壊

今日を生き延びればいいという戦闘
と、勝った相手から取ればいい、という
戦争の環境ガバナンス

× 1944年11月、西表島・浦内川の洪水は、原生林の伐採後の枝葉が自然のダムとなり、軍用の製材所をすべて押し流し、事業は崩壊。

× 1994年からのルワンダ・コンゴの内戦で、世界遺産のカフジ・ビエガ公園保護官が銃を没収され、600頭いたゾウが2頭までに減った。

住民の1/3が戦争マラリアで死亡

沖縄戦を長引かせるため島を米軍の飛行場にさせない作戦？



八重山毎日新聞（2007-05-03）波照間中学生が西表島を訪問

3. 現在への問いかけ——ガバナンス相互の関係から「賢明度」を推測できないか？

環境ガバナンスによる危機回避 「賢明な利用」への道

1. 同じか近いレベルの環境ガバナンスの衝突をより広域の環境ガバナンスが調整する。
2. 重層し連関する環境ガバナンスのいくつかが消滅しても、その機能を補完できる。
3. 環境の変化のスピードにあわせて柔軟に対応できる環境ガバナンスを構築。
(= 順応的管理)

現在のガバナンスを見る目

- ガバナンス層間の信頼関係を損ねる情報の隠匿・偽装はないか？
- 家族・家族群の層にあまりに納得できない負担がかかっているか。
- どれかの層のガバナンスが消滅ないし実質的機能停止におちいっていないか？
- 「流域の思想」bioregionalismにたった「越訴」がせめて成り立つ余地があるか。

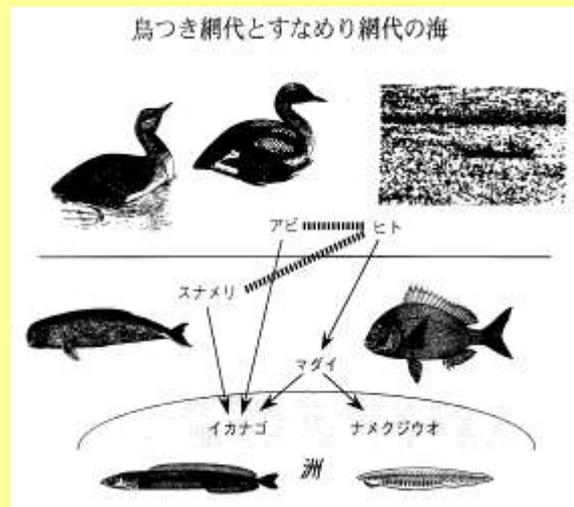
瀬戸内海の生物多様性保護

瀬戸内海の自然の特徴

- ・瀬戸内海はすぐれた風光を持つ、東アジア最大の内海生態系である
- ・鳥付き網代、スナメリ網代に代表されるような、自然との共生の文化が息づいてきた
- ・砂堆のイカナゴを起点にした、特徴ある食物連鎖を持つ
- ・特徴ある生物多様性は危機的な速度で失われつつあるが、周防灘に最もよい状態で残っている



建設予定地とされた上関の長島



上関原子力発電所建設用地にボーリング調査が開始され、自然破壊が始まった

上関原子力発電所計画の問題点

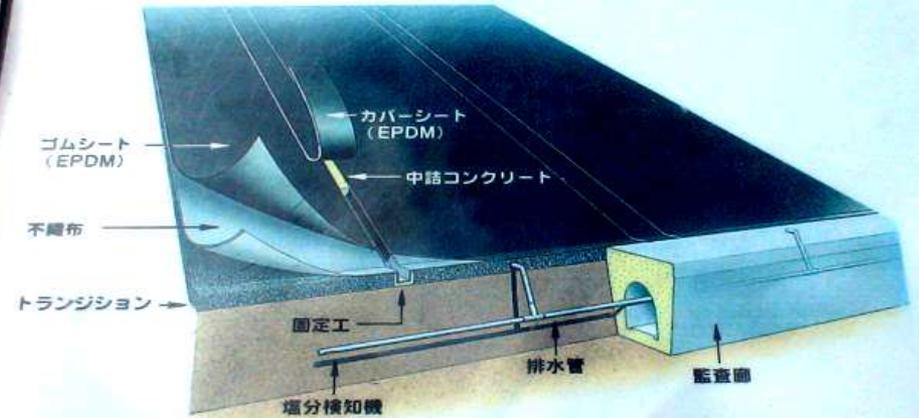
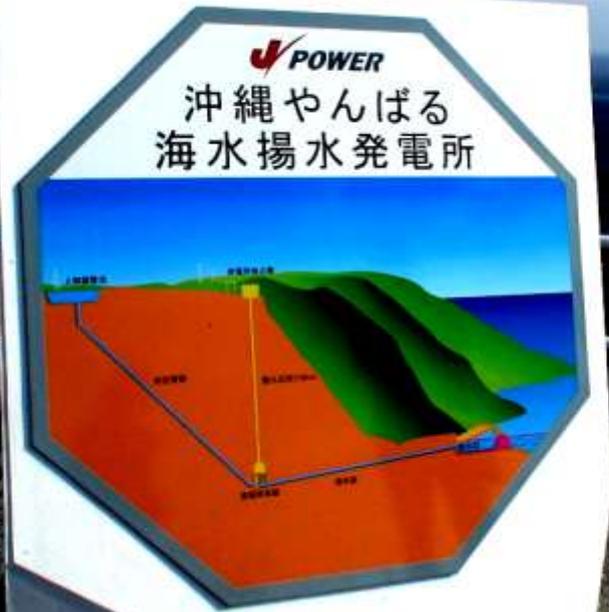
- ・瀬戸内海に放射能汚染源を造ること自体が問題
- ・建設予定地が周防灘(瀬戸内海の生物多様性のホットスポット)
- ・原発の大量の温排水による瀬戸内海の水温上昇(イカナゴなど冷水性の生物への影響)
- ・原発の大量の塩素消毒水の温排水への投入(広島湾のカキなどへの影響)

もうひとつ！エネルギーのこと

△生産されるエネルギーより注ぎ込む
エネルギーが大きいのに、エネルギー生
産技術として宣伝されているとすれば、
実はそれは軍事技術である証拠

世界初の海水揚水発電所inやんばる

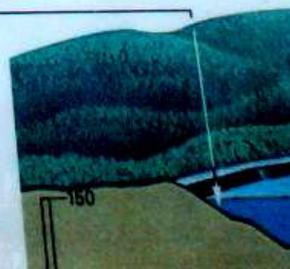
原発のコスト削減試験 → 国策による環境ガバナンス



遮水シート

上部調整池には海水が地下にもれないようゴムシートを布設しました。

自然にやさしく



それでも人間の智恵の及ばぬところ

- 島々にリアルにつたわるカミガミの怒りの記憶。
- (わさび調査のためになどで)山に入るとき、手を合わせて「**ありがとうございます**」と言うようになっている私がありました(涙が出るほど切ない絶滅寸前の美味しさがわかる山根京子さんの発表から)。
- 屋久島のおばあちゃんにならって以来「今日も田畑のお世話をさせてください。**欲ではあります**が収穫までお守りください」とわが家では若者たちとともに唱えることにしています。

→ **一神教や天皇教の洗礼を受けてなお
生きる筋金入りのアニミズムの実践と教育**